

高山市の財政は健全です

地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づき、市の財政状況を判断するための指標を毎年公表しています。平成27年度も前年度までに引き続き、全ての指標において早期健全化基準を下回っており、健全な財政運営が図られています。

※このことは監査委員審査意見書にも明記されています。

健全化判断比率

赤字額や将来負担がない場合は「-」で表示 (単位:%)

実質赤字比率	-	(11.77)
連結実質赤字比率	-	(16.77)
実質公債費比率	8.7	(25.0)
将来負担比率	-	(350.0)

●表中のカッコ内の数値は、市の早期健全化基準です。この基準を超えると財政健全化に向けた措置をとらなければなりません。

資金不足比率

資金不足額がない場合は「-」で表示 (単位:%)

下水道事業特別会計	-	(20.0)
地方卸売市場事業特別会計	-	(20.0)
農業集落排水事業特別会計	-	(20.0)
観光施設事業特別会計	-	(20.0)
水道事業会計	-	(20.0)

●表中のカッコ内の数値は、市の経営健全化基準です。

平成27年度の財務諸表 (普通会計ベース)

市の財政状況を客観的に把握し、効率的な財政運営などに役立てるため、貸借対照表(バランスシート)をはじめとする財務諸表を作成し公表しています。財務諸表は単に作成・公表するだけでなく、今後の行政運営に活用していきます。



貸借対照表 (バランスシート)

資産の部 / 計 2,924億4,154万円

〈行政サービスを提供するために保有している資産(財産)〉

■有形固定資産: 2,353億1,609万円

学校や道路、橋などの建設に使われたお金の総額

■売却可能資産: 6億8,369万円

遊休資産の固定資産評価額の総額

■投資的資産: 212億2,869万円

関係団体への出資金やまちづくり基金、福祉健康基金などの特定目的基金などの総額

■流動的資産: 352億1,307万円

現金のほか、財政調整基金などのすぐに現金化できる基金、市税などの未収金などの総額

負債の部 / 計 430億2,536万円 (将来の世代が負担する金額)

■借入金(市債): 322億7,243万円

学校や道路などを建設するため、市が銀行や国から借りたお金(借金)の残高

■引当金: 78億5,288万円

市職員退職手当など、将来発生することが見込まれる費用の総額

■未払金など: 29億5万円

純資産の部 / 計 2,494億1,618万円 (これまでの世代が負担した金額)

■純資産: 2,494億1,618万円

学校や道路などを建設するために使われた国や県からの補助金や税金の総額

市民一人あたりにおきかえると...

土地や建物など
262.1万円

借入金など
47.8万円

出資金など
23.6万円

純資産
277.0万円

現金など
39.1万円

資産
324.8万円

負債と純資産
324.8万円

※財務諸表は「総務省方式改訂モデル」で作成しています。

※行政コスト計算書や資金収支計算書など、詳細は市ホームページでもご覧いただけます。

広報ID 1002112